



## コラム



### ロボットにちなんで



QI 委員会委員長 富山 陽介

リハビリテーション関連職種を悩ませる言葉の一つに「リハビリをすればよくなるよ」があります。家族や親戚から言われたり、前の病院の主治医から言われたりと様々です。「リハビリ」とはどういうもの？「よくなる」とはどういうこと？など基本的な部分で行き違いが生じることが時々あります。

私がリハビリの専門医を目指した頃と現在とでは脳卒中のリハビリの考え方が大きく変わっています。それは神経科学の進歩やロボットの急速な進歩などを背景にしています。10年以上前から神経機構の研究や実際の臨床現場あるいは介護福祉の現場でもロボットはトピックスの一つです。

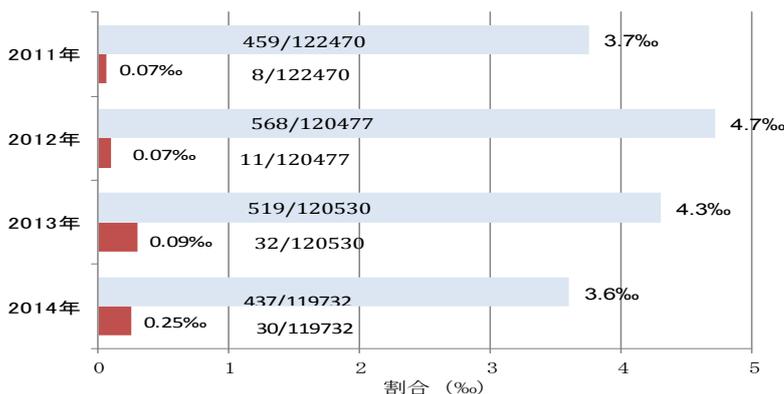
先日、リハビリ科の後期研修医君の企画でロボットのハル(HAL)のデモがありました。今回は介助者をサポートするロボットでした。使ってみたセラピストのびっくりした顔が印象的でした。まだまだ高価ですし、有用性の評価も十分に定まってはいないので一般臨床で活用するにはもう少し時間がかかりますが、時代の変化を感じた一時でした。

人間の関節構造は複雑です。それに多くの筋肉が複雑にからみついています。それを脳や脊髄がどのように制御しているのかは、それを理解するだけでも大変ですし、まだまだ分からないことも多いです。この複雑な領域の中でなにをもってよくなったと判断するかという評価や尺度も重要といえます。リハビリの領域では実に沢山の評価を行います。人間の動作を多角的に観察してその指標を出して、総合的に判断することになります。

医療技術の質とは別に、組織としての病院の質というものもあるように思います。特に今の坂病院にはそれが問われているようにも感じます。複雑な組織である病院をどのように評価するか、なにをもってよくなったと言えるかは難しい問題です。そこでは簡便に再現性よく質の良い情報をどう得るかがキーワードになります。リハビリの医師としても興味を持ちつつその難しさに頭をかかえ、そしてちょっぴりチャレンジ精神も刺激されています。

## 指標紹介 入院患者の転倒・転落発生率

■ A) 入院患者の転倒・転落発生率 ■ B) 治療を必要とする転倒・転落発生率



当院の転倒・転落の発生率は前年に比べ0.7%減少しました。また、治療を要する転倒・転落の発生率も前年に比べわずかですが減少しました。当院では入院中の医療事故のうち、全報告数の3割が転倒・転落を占めており、頻度の高い事故として捉えています。そのための対策として入院時に転倒転落のアセスメントを行い、入院7日目に評価を行っています。更に、入院日数に応じて、1週間ごとに評価を行っています。

2014年度の取り組みとしては月に2回転倒・転落の多職種によるプロジェクトチームで病棟の巡視を行ってきました。また、事故後初期対応のフローチャートを作成し各病棟に配布し速やかな対応が出来るようにしました。更に対策グッズの充実のためにスイングアーム柵の購入・離床センサーのコードレス化の対策を徐々に行っています。継続的な対策としては、入院時の転倒・転落の対策についての説明を本人・家族に周知・徹底を図り同意を得ることも効果があると捉えています。

QI 委員 看護師 高橋 順子

## シリーズ「統計のはなし」No.23

### ～パーミル(‰)ってナニ?～

先日、2014年度版の「医療の質」サイトを公開しました。QI委員会の方々から寄せられた原稿をまとめて作成したものです。このニュースタイトル下にあるURL、もしくは坂病院のサイトからたどってみてください(サイトのトップページ右側にリンクがあります)。このウェブサイトはスマホやタブレットでも読めるようにしてあります。院内外で活用していただければ幸いです。

さて、今回のニュースのテーマは転倒・転落率です。グラフを見ると「‰」という見慣れない記号があります。これは「%」と「。」が並んでいるわけではなく、ひとつの記号です。「パーミル」と読む記号で、日本語では「千分率」と訳がついています。訳が示す通り、千分の一を表します。0.1%が1‰と同じです。とても少ない割合を表す場合や、分母が千単位の場合に用いられます。小さな丸を見落としがちですが、パーセントとは数値の意味合いが10倍違うので気をつけてください。

ところで、このパーミルの語源はラテン語まで遡ります。パーは「〜ごとに」や「基準・単位」を意味しています(ゴルフ用語の「パー」も同じです)。残りの「ミル」は「千」を表します。ミリメートルやミリグラムの「ミリ」と同じ意味合いです。直訳すると「千ごとに〜」と、千分率の意味になりますね。ちなみに「千年間」を表す「ミレニアム」の「ミレ」も同じ語源らしいです。

では、パーセントはどうかというと「セント」は「百」を意味します。北米の通貨「セント」も100セントで1ドルなので、同じ単位数量なのがわかります。また、「センチ」と同じ語源です。100cm=1mと百単位で単位が変わっていますね。このセント、「センチュリー(世紀)」と語源が一緒です。

見慣れない単位記号でも語源を調べてみると歴史があってなかなか奥深いものですね。以上、いつもと趣向を変えて「語源のはなし」をお送りしました。

医療情報企画センター SE 佐藤洋之

## 次号(第24号・9月発行予定)のご案内

次回は引き続き指標紹介「褥瘡新規発生率」、シリーズ「統計のはなし」No.24を予定しています。

